社会との連携

本学は社会との連携の意義を認識し、大学として、あるいは本学教官の責任として社会への貢献を意図して活動してきた。主たる活動内容は、公開講座、健康栄養公開講座、滋賀医科大学関連病院長会議、しゃくなげ会といった活動のほか、学生としての社会人受け入れ等の体制整備、医学科の学士編入などにも積極的に取り組んでいる。

公開講座

公開講座に関しては学則にも規定があり、地域社会の発展をめざして平成元年より毎年、7月あるいは8月に大学内で開催されている。毎年、メインテーマをたて、1コース3〜4日間の日程で行っている。テーマは医科大学としての役割を果たすべく、健康の保持増進を目的としたものであり、テーマに沿った内容をわかりやすく解説している。アンケートによると、テーマに関心があって参加したという声が多く、老年期の健康やがん予防対策等への受講者は多いが、災害や臓器移植・遺伝子等のトピックスに関する講座は受講者が少ないという結果である。

今後、テーマの選定や公開講座のPRにつとめるとともに、住民の声を生かした企画を検討していく必要がある。また、会場を本学以外の地域に移し、大学が地域に出てゆくといったいわゆる「出前公開講座」といったように、住民の生活環境に近い場所で開催するということについても検討していく必要があろう。公開講座の各年度のメインテーマ及び年度別受講数を以下に示す。

図1　公開講座受講者年度別推移

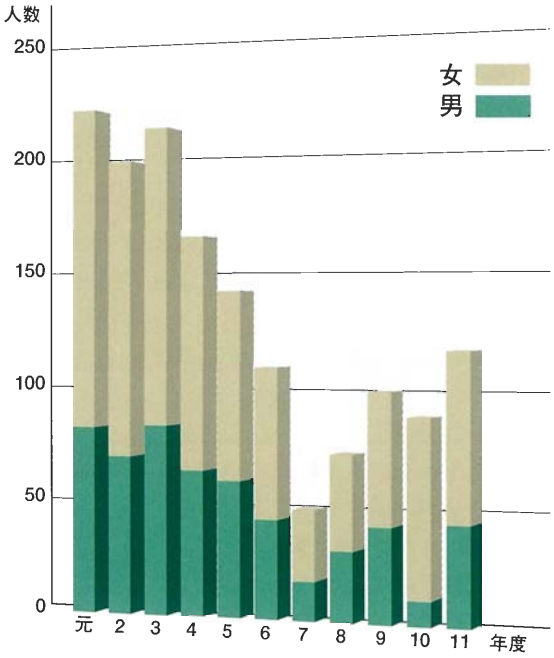


表1　公開講座メインテーマ

平成 元年度	長寿と健康
平成 2年度	長寿と健康Ⅱ
平成 3年度	すこやかに生きる
平成 4年度	すこやかに生きるⅡ
平成 5年度	現代医学のトピックス
平成 6年度	現代医学のトピックスⅡ
平成 7年度	くらしと災害
平成 8年度	くらしと災害Ⅱ
平成 9年度	くらしと健康
平成10年度	くらしと健康Ⅱ
平成11年度	老いと医学ー老化の原因・予防・介護

健康栄養公開講座

平成8年度より、滋賀医科大学病院の栄養管理室が主体なって健康栄養公開講座を開催している。開講の主旨は、医療に深く関係する食生活について考えていくことにある。毎回の受講者は60名〜80名であり、幅広い年代が参加している。8割は女性である。3回までのテーマは、「現代の食生活を考える」(平成8年度)、「生活習慣病の予防は日常生活の食生活から」(平成9年度)、「現代の食生活を考える」(平成10年度)であり、子どもの食事から老人の食事までを考えて組み立てている。質疑応答も含み、アンケートによっても有意義な講座になっていることがわかる。今後も、生活習慣病との関連等を考えると継続の価値の高い公開講座である。

滋賀医科大学関連病院長会議

従来、懇談会として開催してきたものを、平成6年度より「滋賀医科大学関連病院長会議」としてあらたに発足した。県下、近県の病院長や大学の関係者のみにとどまらず、県福祉部関係者、消防庁関係者、看護部長・総看護婦長の出席を得て開催されている。毎回、120名をこえる多くの出席者があり、活発に論議がされている。議題は、医療、教育、看護等の多方面に関して準備され、教育に関しては参加している医学科、看護学科学生の意見も尊重されている。

国立大学である滋賀医科大学が、地域の医療の中心となっていくためにも、また、医師を育成していくためにも地域の施設の協力は必須であり、こうした会議開催により、県下及び近県の医療施設に大学についての理解を深めることも可能であり、それにより県下・近県の医療施設との連携が確実になされ、大学が地域住民の健康問題に関与していけることになる。平成9年度、及び平成10年度の会議の議題は右のようである。

平成9年度　第5回会議

- 地域におけるケア活動の現状と実践について
- 臨床教授制度の発足及び学外臨床実習の拡大について

平成10年度　第6回会議

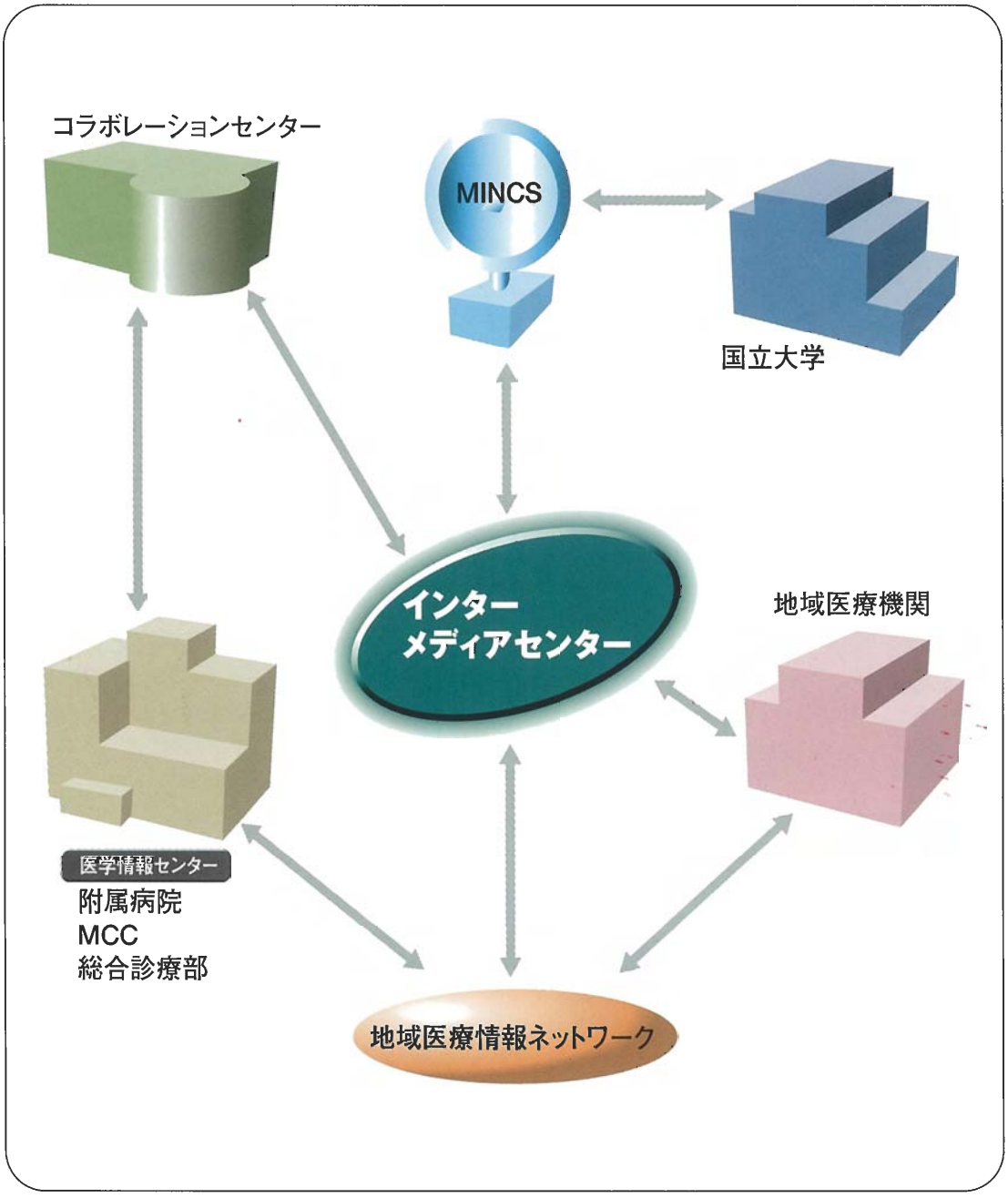
- 治験コーディネーターの導入について
- 学外臨床実習について
- 衛星医療情報ネットワーク及びMRIの設置について
- 地域医療について
- 大学（病院）に求められるもの

しゃくなげ会

しゃくなげ会は、医学の進歩・発展を心から願われる住民の方々が、天寿全うの時に大学の研究・教育に貢献すべく献体をお約束してくださるという組織であり、医学科教官も会員となっている。現在、会員数は1500名をこえ、会報を発行するなどのほか、教授をはじめとする医学科教官は、会員の方々の健康を願って健康相談に携わるなどの活動を行っている。

大学の社会人の受け入れ

社会人の受け入れとしての体制については、現状では2つの取り組みが行われている。1つは、平成11年度に大学院医学系研究科看護学専攻修士課程の設置であり、現在18名の学生がこの制度のもとに入学している。もう1点は平成12年度医学部医学科第2年次後期学士編入学」である。新聞等にも本学の学士編入の主旨等が掲載されている。今後は、こうした新しい試みの評価をしつつ、社会人の受け入れが単に個人や社会のためにとどまらず、大学の教育や医療の発展に価値のあるものとしての意義をもてるよう、大学をあげて考えていかねばならないであろう。

インターメディアセンター

地域医療情報ネットワーク・マルチメディアセンター・MINCS等による情報を統合し、大学と地域医療機関との間において情報交換を行っている。今後、高度先進医療の推進と地域医療への貢献の両面において効果が期待される。